3 復興を加速する地域交通プラットフォーム｜Future株式会社

プロジェクト概要

シェアリングサービス及びデマンド交通等、新たな地域交通の事業者・事業種を連携する地域交通DXプラットフォームを構築し、自動車を所有しない帰還住民や復興従事者の交通手段確保と生活環境を向上する。また、本事業で取得するデータをまちづくりや地域公共交通計画の立案・検討に活用し、持続可能な地域交通を実現する。

課題

- 被災後長らくJR以外の交通手段の確保が困難であり、自動車を所有しない住民の帰還や復興従事者の交通手段確保が課題となっている。シェアリングやバス、デマンドタクシー等の新たな複数交通の省人化・効率化・相互運用性向上が必須。

取組内容

■複数事業者、自治体連携による高効率な地域交通連携プラットフォームを確立

- 福島県大熊町「次世代交通ビジョン」実現に向けて、シェアリング（アシスト自転車、特定小型原付、ミニカー等複数車種高度シェアリング）及びバス、デマンド交通等地域交通の統合運用により交通空白地域の高効率な交通網を確立する。

■ システム統合による業務効率の向上の取り組み

① 異なるシェアモビリティ貸出アプリシステム連携

- 「シェアサイクル」及び「EVバイクシェア」「カーシェア（屋根付側車付2輪）』が管理するポートを共有化し、各アプリで共有ポートを利用したモビリティの貸出・返却を可能とする取組。複数事業者の異なるシェアモビリティを統合運用するため「シェアサイクルポート共有API標準仕様書」準拠化を行う。

② MaaSアプリ「GOGOシェア」の利用者向けシステムからデマンドシステムに接続

- 「デマンドバス配車API標準仕様書」への準拠化及びシェアモビリティ貸出しシステムとの連携を行う。

③ モビリティデータの取得・活用

- 上記①②のモード横断データ分析、活用により地域公共交通計画の検討・立案にも活用する。

事業要件

- システム統合による業務効率の向上（共同化）

技術要件

- シェアサイクルポート共有API標準仕様書
- デマンドバスシステム連携API標準仕様書

効果

- モード横断的な交通サービス展開により移動の自由を実現し、自家用車を持たない避難住民の帰還や外部からの転入促進及び復興従事者の生活環境向上を図り、年間の生活交通利用者を2倍を目指す。（令和7年600回→令和8年1200回）
- デジタルチケットの予約決済数の増加により、交通再編への参考となる利用データの集計が増加

事業実施自治体・エリア

福島県双葉郡大熊町

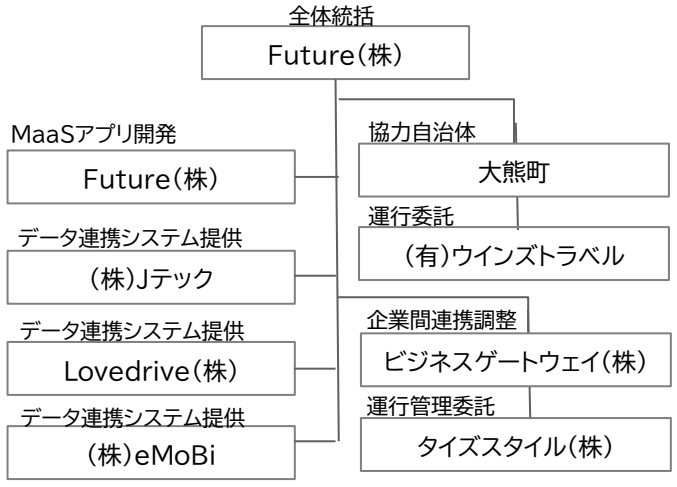
交通事業者

- EVバイクシェア：Future株式会社
- シェアサイクル： Lovedrive株式会社、株式会社 Jテック
- カーシェア：株式会社eMoBi
- バス：有限会社ウインズトラベル

アプリ・システム等

- アプリ・システム：MaaSアプリ「GOGOシェア」（FUTURE）
- データの取得方法：GOGOシェア他、連携交通事業者システムにより車載端末よりポート管理情報、モビリティ動態情報、配車情報等を取得。連携事業者よりチケット認証情報を取得。
- データの活用方法：福島県双葉郡の移動・行動解析を実施し、まちづくり、地域公共交通計画検討・立案に活用し、復興を加速する。

座組



スケジュール

想定スケジュール

4 ～ 6月 要件定義
5 ～ 1月 システム開発・改修
5 ～ 1月 実証
10 ～ 2月 効果測定・まとめ

Copyright © 2025 by MLIT All Rights Reserved.